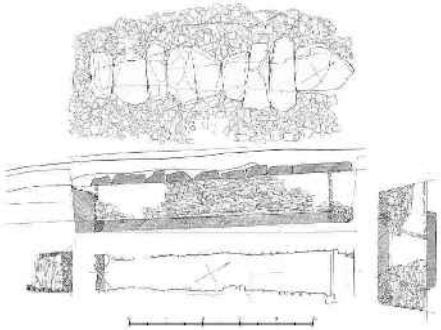
池田茶臼山古墳 竪穴式石室

前方後円墳である池田茶臼山古墳の後円部の墳頂部に、周辺地を治めた長を埋葬した竪穴式石室（写真１・２）があります。竪穴式石室とは板のような石を積んで作られた細長い四角の部屋で、中に長の遺骸を納めた棺が安置されています（実際は棺を安置し、それを包むように石を積んでいます。近年では“竪穴式石槨”という呼び方もされています）。池田茶臼山古墳の石室内側の大きさは、長さ６．３５ｍ、幅は南壁の下場で１．１ｍ、上場で０．７ｍ、高さ１ｍを測り、その上に９枚の石を並べて蓋にしています。

昭和３３年（１９５８）に、竪穴式石室の内部調査が行われましたが、盗掘のため副葬品はほとんど持ち去られたようで、石室からは、ガラス製小玉（写真３）、土師質脚付椀（写真４）、碧玉製石釧（写真５）、碧玉製管玉（写真６）などしか残っていませんでした。なお、現在は五月丘１丁目の池田市立歴史民俗資料館で保管されています。

市内で池田茶臼山古墳の次に築造された古墳は、ここより北西約５００ｍの所にある娯三堂古墳です。娯三堂古墳も竪穴式石室（写真７）を有し、石室からは「画文帯神獣鏡」（写真８）などが見つかっていますが、直径２７ｍの円墳と規模が縮小し、また、娯三堂古墳に続く古墳は築造されていません。そのことから、二つの古墳を築造した勢力が次第に衰え、その後、この地の支配勢力が変化したことが考えられます。



竪穴式石室実測図

写真1
竪穴式石室
（1958年）

写真2
竪穴式石室
（1958年）

写真3　ガラス製小玉

写真5　碧玉製石釧

写真4　土師質脚付椀

写真6　碧玉製石管玉

写真7　娯三堂古墳
竪穴式石室（1991年）

写真8　画文帯神獣鏡

大阪府史跡　池田茶臼山古墳

昭和 46 年（1971）3 月 31 日指定　史第 24 号

大阪府史跡　池田茶臼山古墳は、猪名川流域に所在する古墳時代前期（４世紀）の前方後円墳です。昭和３３年（１９５８）の調査の結果、全長６．３５ｍの竪穴式石室（写真１）を有することや、埴輪列（写真２）・埴輪円筒棺（写真３・４）の存在が判明しました。調査後は、公園として整備されましたが、永年の風雨により墳丘が流され、形が変わりました。そのため、今後の保存対策の資料を得る目的で、平成２７年（２０１５）・２８年（２０１６）に発掘調査を実施しました。調査の結果、前方部端部の調査地では古墳の裾に人頭大の基底石とその上に拳大の葺石（写真１１・１３・１４）が残っていることが、また、後円部と前方部が接するくびれ部の調査地でも、古墳の裾に人頭大の基底石が残っていることが確認できました。さらに、本来古墳に並べられていた円筒埴輪（写真９・１２）が転落した状態で見つかりました。葺石・基底石・埴輪などを確認したことにより、古墳は当初、石で覆われ、埴輪がめぐらされていたことや、全長約５９．５ｍ、後円部の幅３４ｍ、前方部の幅１８ｍと古墳の正確な大きさが判明しました。

平成２９年（２０１７）・３０年（２０１８）、これらの調査成果を基に大阪府宝くじ社会貢献広報市町村補助金を得て盛土や植栽を実施し、古墳の保護を行いました。

整備後の古墳

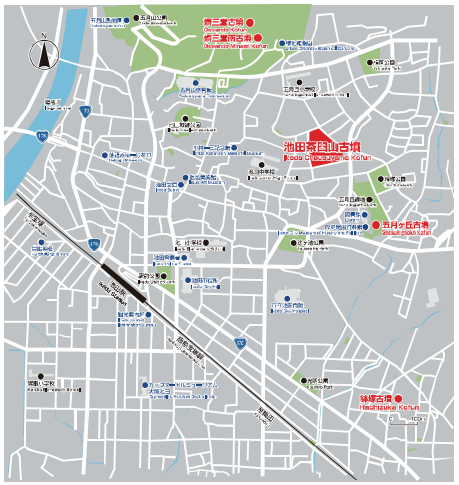


写真１

写真３

写真２

写真４

写真 13

写真 14

写真 12

写真 11

写真 10

写真 9

写真 8

写真 7

写真 6

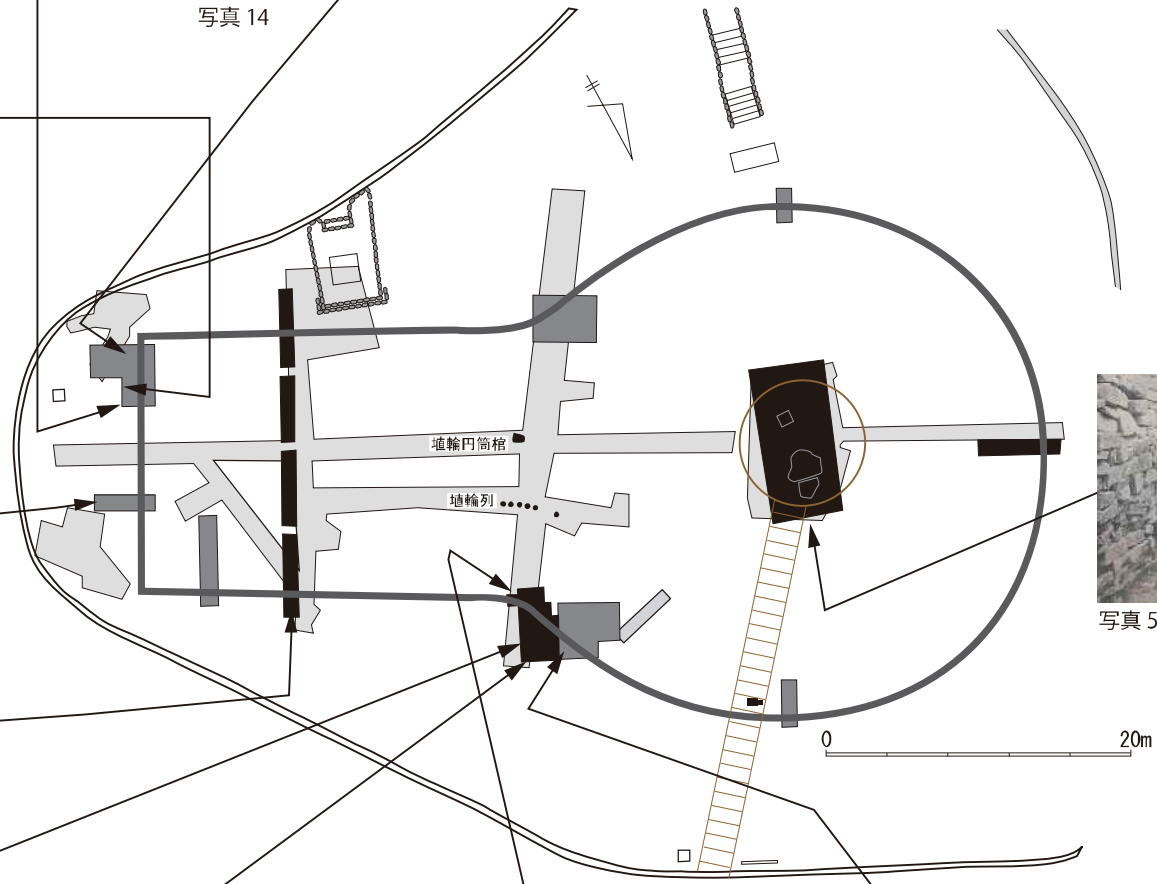


写真 5

この公園の整備には、
宝くじの収益金の一部が
使われています。